



さくら

令和6年度 第10号
桶川市立川田谷小学校
学校だより
令和7年1月23日



2月の行事予定

日	曜	朝の活動	主な行事予定・活動
1	土		
2	日		PTA 全員研修会
3	月	トライ	
4	火	読書	なかよしデー
5	水	トライ	児童委員会(2月分)
6	木	音楽朝会 2年生	音楽朝会2年 第3回合同学習会(たんぼぼ) SC 来校
7	金	-	万作踊り講座3年
8	土		
9	日		
10	月	トライ	
11	火		建国記念の日
12	水	トライ	全学年5時間 ★教育相談日
13	木	トライ	学校応援団総会
14	金	-	全学年5時間
15	土		
16	日		
17	月	トライ	
18	火	読書	川小人權の日
19	水	トライ	クラブ⑧
20	木	トライ	5年校外学習
21	金	-	
22	土		
23	日		天皇誕生日
24	月		振替休日
25	火	全校朝会	全校朝会
26	水	トライ	読み聞かせ(3・4年) 児童委員会(3月分)最終 学校運営協議会⑤
27	木	トライ	全学年5時間
28	金	-	6年生を送る会

あたりまえだと思っていたことが 実はあたりまえではなかった

校長 赤羽 広美

暦の上では春はもうすぐですが、まだまだ寒い日が続いています。校庭では、いろいろな学年の子どもたちが入り混じって、仲よく鬼ごっこをしたり、ドッジボールをしたりしている姿をよく見かけます。子供たちが仲良く遊んでいる姿を見るとこちらまで温かい気持ちになります。

さて、先日『ナージャの5つのがっこう』作者キリーロバ・ナージャ(大日本図書2018年出版)の絵本を読みました。この本は、親の仕事の関係で世界5か国(ロシア、イギリス、アメリカ、フランス、日本)の学校に転校をすることになった作者(小学校1年生)が、実体験をもとに書いた絵本です。勉強をするときの机の配置や持ち物などが国ごとに違うこと、子供心に「どうして?」と不思議に思ったことが書いてあります。例えば、ロシアの小学校では男女ペアで長机に座って勉強し、イギリスでは5~6人がグループ型で勉強。アメリカは真ん中にソファが置いてあるコの字型、フランスは、全員でロの字型(先生はロの字の外側です)。学校への持ち物もいろいろです。学習方法もいろいろで、今まであたりまえだと思っていたことが、実はあたりまえじゃなかったという驚きが、この本にはあります。

作者は、日本について「国語や算数などの教科に加え、図工、家庭科、書道やリコーダーの練習もあって、義務教育のなかでこんなにたくさん学べる学校は、他の国にはなかなかないと思います。また給食や掃除当番があるのも日本の学校教育の特長です。海外では自分たちで教室空間をきれいにするという発想はありませんし、子供の責任感やチームワークが築きあげられるいいシステムだと思いました。そして私にとって驚きのトップは、何とんでも運動会や学芸会のクオリティの高さです。ロシアにも運動会や音楽会はありますが、私の時代は上手な生徒だけが選ばれて出場し、他の子は見ているだけでした。誰ひとり取り残さず、チームだからこそ達成できるものがあることを日本の小学校で学びました。」とインタビューで答えています。

日本の今までの教育は、これまでの日本を支えてきたもので、世界に誇れる素晴らしいものだと思います。しかし、世の中が変化している今、今まで通りではなく、どんな変化にも対応できるようにしていくことも大切です。「これって何?」と疑問を持ち、新しいことに挑戦し、いいものは取り入れていく。これからも世の中はどんどん変わっていくでしょう。その変化に柔軟に対応できるように、川田谷小でも変化に対応できる子供たちを育てていきたいと思っています。

